

まんたら通信

第145号 (通巻177号)

平成20年(2008)07月 佛誕2574年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
URL <http://www.awa.or.jp/home/ryusho/>
E-mail ryusho@awa.or.jp

あじ 阿字の子が・・・

阿字の子が
阿字の古里立ちいでて
また立ちかえる
阿字の古里

高野山を開創するため大変な努力を重ねておられた頃、右腕とも言われた、甥でもあるお弟子智泉大徳(789〜825)が、こころざし半ばでお亡くなりになりました。

このことを深く悲しまれたお大師さまは冒頭の一首を詠まれ、御自ら大徳のためにお墓を建てて、懇ろに弔われたと伝えられます。

左に掲げた文字は、一種の刷毛で書いた飾り文字ですが、インドの古い文字のサンسكريット(梵字)で「あ」と読み、漢字では「阿」と書き大日如来を表します。

そして、ただの文字というだけでなく、丁度、日の丸の旗が日本そのものを表すように、この文字は大日如来そのものでもあります。

世の中には観音、勢至、月光、日光、地藏などの菩薩や阿弥陀、薬師、釈迦、多宝などの如来。お不動様のような明王、或いは毘沙門天などの天部など、この宇宙には数

限りなく仏様がおられます。

これは、教えを聞く私たちの能力に応じて、一番相応しい説き方をするために、沢山の仏様がおいでになるということなのです。

そして、これらの総ての仏様の慈悲の徳を兼ね備えておられるのが、大日如来ということになります。

中心の仏様といつても良いですね。

ご詠歌を習っている人はもうご存知と思いますが、「阿字の子が」の和歌の意味を私流に味わえば「大日如来の世界からやって来た如来の愛し子は、娑婆世界の修行を終えて、また大日如来という母の懐に帰って行った。」ということ、またいつの日にか会い、互いに励ましあって修行を続けたいもの、というお大師さまの願いが込められているのだと思います。

私たちは誰でも、両親の力を借りて仏様の世界から生まれてきました。そして遅かれ早かれ、当たり前のことですが間違いない仏様の世界に帰ります。

生かされている自分の命が終わる日、それがいつのことかは、仏様だけがご存知のこと、私たちに判りませぬ。

命を預かっている私たちに出来ることは、漫然と日を送ることではなく、その日その日を丁寧に生きること、これ以外にはないと思うのです。

「丁寧に生きる」とは、人に優しい生き方と言っても良いでしょうか。或いは人に喜ばれる生き方を身に付けるように努めること、でもありますね。

とは言うものの、時と場合でなかなか難しいことがあります。

私自身、「お前、人に言うようにやってるか」と誰かに言われたら、この半年を振り返ってさえ返事に困る日々です。

でも、日光のいろは坂を歩いて登るように、いつの日か気付いてみたら「おや、こんなところまで登ったんだな」と言える日が来ることを信じて、その日その日を送ろうと思っています。



生数は105人になりましたと、メールで知らせて下さいました。10月末頃、子どもたちに会いにスリランカに行きたいと思っています。◆今月の野草はタケニグサ(チャンバグク)【けし科タケニグサ属】です。日当たりのよい荒れ地のようところが好むようです。多年生で、丈は2メートル以上になります。剛直で、余り美しいという訳ではありませんが、丈が高いだけに良く目立ちます。東虹苑の道ばたの群落には、ミツバチが沢山集まっています。
2008/07/09 龍渉

◆『あそか基金』のこと。
5月、スリランカから来日中のアンギラサ師がおいでになりました。
あそか会様・銚子市宮本純明様・茨城野口治雄様、その他の皆さまから預かっていたものなど含めて、25万円をアンギラサ師にお渡ししました。
基金の額は合計96万円ほどで、まだ100万円にも届きません。『世界一小さな奨学金』と、私が言う所以で、奨学生はやっと20人ですが、それでも『あそか基金』がきっかけになって、他の人たちの賛同があったそうで、アンギラサ師のお寺の奨学

◆7月に入りました。
鬱陶しい季節とも間もなくお別れですが、昔から梅雨明け10日という言葉がありますが、陽気の変わり目について行かず、体調を崩すことがあります。
お互い、気をつけたいものですね。
◆去年も書いた覚えがありますが、庫裏の玄関にツバメの夫婦が来ています。ズボラ夫婦なのか一向にひなが現れません。でも、夜になると巣に寝ています。ただ寝るだけなら、これが本当の『ツバメのお宿』だと笑って見えています。

余滴

